

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202429		
法人名	社会福祉法人長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム ひだまりの家		
所在地	長崎県佐世保市大野町166番地13		
自己評価作成日	令和3年8月30日	評価結果市町村受理日	令和3年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型事業所として地域との交流に力を入れております。今年度はコロナ禍ということもあり行事等に大幅な制限がありましたが、日々の生活の中で利用者様の声に応えることが出来るよう職員一同工夫を凝らしケアを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは佐世保市北部の大型商業施設から程近い閑静な住宅地にあり、玄関前の遊歩道からは季節の花々を愉しむことができる。ホーム長をはじめ職員一人ひとりが地域の催しなどに積極的に参加し、地域との関わりを大切にしながら地域住民との信頼関係を構築し、継続的に取り組んでいる。コロナ禍以前はホームの避難訓練に地域住民が参加し、入居者の代替役や入居者の見守り等を地域住民に担ってもらうなど地域と一体となった訓練を実施していた。これまでホーム裏側の土砂災害発生が懸念されていたが、介護施設では初となる公的助成金を受けることが決定し、来年にはホームを移転することとなった。ホーム長はこれまで築いてきた地域との関係性が移転により継続できない面もあるが、新たな地域との関係性を見出し積極的に取り組む意向である。法人の福利厚生等の職場環境の整備、ホーム長への信頼等、働きやすい職場環境を整備していることが入居者らしい暮らしの実現に繋がっており、移転後の地域への展開にも期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」を毎朝の申し送りの際に唱和するとともに、事業所の理念である「思いやりの言葉、笑顔のケア、心地よいひだまり」の実践に取り組んでいる。	職員間で法人の理念を唱和し、理念に基づいた介護の実践に日々努めている。ホーム長と定期的な面談し理念に沿った支援ができているかを確認している。職員は人事考課制度による自己評価を実施し、実践の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事に参加したり、ホーム行事に参加していただく機会が現状出ていません。	ホームは地域との繋がりが強く、ホーム長を中心として職員が地域に出向いて交流を深め信頼関係を構築している。コロナ禍で行事等を通じた交流はできていないが、敬老の日には地域から入居者へのお祝いや子ども達から手紙が届くなど、地域との交流が入居者の喜びに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為運営推進会議は書面会議として地域の方と意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等をホーム会議等を利用し職員で共有するようにしている。	コロナ禍により運営推進会議は書面会議で行っている。入居者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、他のグループホーム職員が構成メンバーである。入居者状況、行事報告、身体拘束適正化検討委員会等について報告し、構成メンバーから意見や要望が挙がっている。その内容を検討し運営に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、地域包括センターの方に参加していただき、情報交換、意見交換を行っている。	介護支援専門員が市の生活福祉課の窓口で申請手続きに訪れたり、運営上の不明な点、困っている点を長寿社会課で相談するなど日頃より市担当者と良好な関係を築いている。地域包括支援センター職員へ空床状況の情報提供を行う等の協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了承を頂いている。	法人内の各事業所に身体拘束適正化検討委員を配置している。法人本部で当委員会を開催し、ホームに持ち帰って全職員に内容を周知している。身体拘束の指針や同意書、身体拘束マニュアルを作成し、職員へ周知・振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍において研修には参加出来ていないが、入浴、更衣介助の際に傷やアザ等が無いかチェックを行うように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍において研修には参加出来ていないが、勉強会などを通じてホーム内で情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所のパンフレットを作成し、入居時や面談の際に、それらを利用し詳しい説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活からでた利用者の意見を会議の際に職員で共有し、改善に努めている。また、面会や電話の際に家族より要望があった際は管理者と対応した職員が中心となり対応している。	職員は入居者との会話の中から要望等を汲み取っている。家族へ連絡した際には意見や要望を聞くようにしている。家族から直接意見を聞いた職員は管理者に報告し、生活ノートやケース記録に残し全職員が情報共有できるようにしている。その内容によってはケアプランに反映させている。	ホームでは職員間で情報共有ができるよう手順を定めているが、職員によって記録の重要性等の認識に差異が生じていることが窺える。今後、全職員に対し情報等の間取りや把握した後の一連の手順・方法、また、その作業の重要性の認識と統一化を図ることに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。	ホーム長は法人全体の代表者会議に出席し、毎月行われるホーム会議の際にその内容や方針を職員へ伝達している。会議やカンファレンスを通じて職員の意見を聞き取り、運営に反映している。ホーム長はいつでも職員の意見や意向を聞く姿勢を持ち、職員が厚い信頼を寄せ、安心して日々の職務に就くことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課表を各職員で記載しその中で今後の目標や反省点を掲げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務が研修と重なった場合には勤務交代を工夫している。また、研修内容を持ち帰り、内容を共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為協議会の研修などには、可能な範囲で参加するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、積極的なコミュニケーションを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設時に、要望を家族へ尋ね、それを介護へと取り入れることで、家族の悩みや不安を解消できるように心掛けている。また、利用者の近況報告を行うことで、情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族との会話から考える最適な支援を見極め、応えることができる様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は対等な立場であり、利用者の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、家族の行事参加は遠慮していただいているが、近況報告を出来る限り行い家族との関係を維持できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や利用者本人から情報を収集し、外出支援等を利用し出来る限りお連れできる様にしてる。	コロナ禍で馴染みの場へ行くことが困難な状況であるが、ドライブで気分転換を図ると共にレクリエーションにも力を入れている。ホーム前が遊歩道であり、職員が入居者と一緒にホーム周辺を散歩したり、コロナ禍であってもできることを試行錯誤しながら馴染みの関係を代替できるような支援を検討し入居者の引きこもり防止やストレス解消に向け取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じて、利用者同士の交流を深める機会を提供している。コミュニケーションが苦手な利用者に関しては、個別レクリエーションや職員が間に入って交流を行うなど一人一人に合ったケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で会話に重点を置き介護を行い、要望の把握に努めている。	職員は入居者との日頃のコミュニケーションを大切に、思いや意向の把握に努めている。入居者との会話の中から新たな情報を聞き取った場合には、ホーム長への報告と生活ノートに記録し、その内容によってはホーム会議で話し合い、ケアプランへ反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に面談を行い、これまでの状況を把握するように努め、記録と口頭による情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を記録に残しカンファレンスの際に、近況報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望と合わせて、担当職員からの近況報告の元ケアプランの実践と見直しを行っている。	職員間でケアカンファレンスを実施し、ケアプラン見直し時に入居者から聞き取った要望や意向をケアプランへ反映している。要介護認定の調査項目シートに沿ってモニタリングを実施し、ケアプラン案を作成後、「伝言ノート」を活用して職員意見を募り、現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出支援の際にも、2ユニットの利点を生かし職員配置を工夫し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域の方との交流は行っていないが、外出支援等を工夫して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に関しては、定期的な往診や口腔ケアをお願いしている。他科受診に関しては出来る限り家族での対応をお願いしている。	ホームでは協力医が月2回訪問診療を行っている。また、必要に応じて歯科の訪問治療を受けることができる。週1回、訪問看護の看護師が入居者の健康管理を行い、主治医との連携を図っている。救急対応時には協力医の連携病院への搬送等、適切な医療が受けられる体制を整備している。他科への受診は家族対応であるが、できない場合は職員が受診支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業者が1回/週健康チェックを行い、職員へのアドバイスを行える体制を確立している。また、特変があった際には協力医への報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会の際に看護師等より情報を収集し、他職員と情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、必要な状態の際には主治医を交えた対談を行い、方針を決めるようにしている。(今年度看取り実績なし)	入居時に本人や家族から終末期の要望を聞き取りホームの指針を説明している。主治医による看取りの判断後、主治医、ホーム、家族との話し合いのもとで看取りについての方針を決め支援している。職員は看取りの内部研修を受け、看取りについての理解や知識の習得に向け研鑽している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の為、今年度研修参加は自粛しているが、利用者の急変時に対応出来るよう救命講習を受けた職員が中心となり指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ禍の為、今年度は地域の方の参加はお断りしているが、避難の際の役割分担を明確にし対応出来るよう取り組んでいる。	今年度の避難訓練は10月に予定している。8月12日から16日まで大雨による土砂災害の恐れがあったため、同法人の有料老人ホーム横尾へ入居者18名を避難させた。避難の概要、反省点の記載、写真を添付した記録を残し、佐世保市へ報告した経緯が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉かけや丁寧な対応を職員一同心がけ、日頃のケアやコミュニケーションの際に実践するようにしている。	職員は入居者個々の特性の把握に努め、その方に応じた声かけに気を配り、その方を尊敬する姿勢で丁寧な関わりに努めている。日頃のコミュニケーション時にも入居者が落ち着いて穏やかに自分の思いや要望を言葉にできるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望(買い物、外出等)に可能な限り応えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、消灯時間、入浴時間は可能な限り本人の希望に沿うように心がけ、個人の時間を大切にいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目には衣替えを行い、季節感を感じていただき、希望者には、衣類の購入や近隣の理容室を利用するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を配置することで、手作り料理を毎日提供できている。また、利用者の要望に合った食事を提供するように心掛けている。	2名の調理専門担当が食事を作ることで他の職員が入居者と関わる時間に余裕ができています。入居者の食べたいものを献立に反映している。地域住民から米をいただいたり、近隣鮮魚店から骨を取り除いた魚や行事食時にてまり寿司を調達するなどのほか、敬老の日や正月の行事食、誕生日はパフェ等のおやつを提供し、入居者が楽しくおいしく食事ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事(お粥、刻み食など)を工夫し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行っている。協力医療機関に口腔ケアを行ってもらい、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	職員は各入居者の排泄パターンの把握に努め、個々に応じた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるよう自立に向け支援している。また、リハビリパンツや尿取りパットの使用軽減に心がけ、家族の経済的負担にも気を配る意識を持って取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、必要であれば主治医の指示のもと、下剤等を利用し排泄コントロールを行っている。また、水分補給の際に個々の状態に応じた工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態や希望に合わせて、利用者本人と相談しながら、入浴して頂けるよう支援している。	入居者が週に2~3回は入浴できるよう支援している。体調不良や入浴への拒否があった場合には代替日に入浴できるよう配慮し入居者の清潔保持に努めている。皮膚疾患がある入居者には入浴の順番を変更したり、必要に応じて2人介助にて浴槽に入れる支援を行っている。職員は入浴時に身体の観察を欠かさず行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方は居室にて休んでいただけるよう、居室の温度管理や寝具の調整など気配りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルのもと、服薬支援を行うとともに、服薬チェック表を活用し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のレクリエーション(塗り絵、将棋、パズルなど)、遊歩道の散歩やドライブを行い、利用者の気分転換が行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者の要望に沿った外出支援を行っている。	ホーム前に遊歩道があり、入居者が安心して散歩できる環境が整備されている。コロナ禍により以前のような外出支援はできていないが、ドライブで気分転換を図る等、入居者がストレスを溜めないよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、多少の現金を持っていただき、買い物を楽しんで頂けるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室などのドアに利用者が混乱しないよう目印を設置している。	共有空間は入居者が居室で過ごす時間に清掃を行っている。毎日、掃除機かけやモップで拭き清掃し清潔保持に努め、手すり等はアルコールや次亜塩素酸水を使用して拭き上げ感染予防に努めている。入居者がフロアで寛いでいる際は穏やかに過せるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事出来るよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を配置し、心地よい居室となるよう工夫している。	入居時の持参品に関するリストを家族へ渡し、入居者は茶碗、箸、湯呑み、家具等使い慣れた物品を持ち込んでいる。居室は在宅生活に近い環境作りに配慮し、清潔保持に取り組むことで入居者が安心して落ち着いた生活ができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレなどの場所がわかりやすいよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」を毎朝の申し送りの際に唱和するとともに、事業所の理念である「思いやりの言葉、笑顔のケア、心地よいひだまり」の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所の行事には地域の方に参加していただいている。また、地域の行事(夏祭り、敬老会など)には、当事業所の職員一同一丸となり参加している。 (今年度はコロナ禍の為実績なし)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方と意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等をホーム会議等を利用し職員で共有するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、地域包括センターの方に参加していただき、情報交換、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了承を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍において研修には参加出来ていないが、入浴、更衣介助の際に傷やアザ等が無いかチェックを行うように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍において研修には参加出来ていないが、勉強会などを通じてホーム内で情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所のパンフレットを作成し、入居時や面談の際に、それらを利用し詳しい説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活からでた利用者の意見を会議の際に職員で共有し、改善に努めてる。また、面会や電話の際に家族より要望があった際は管理者と対応した職員が中心となり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課表を各職員で記載しその中で今後の目標や反省点を掲げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務が研修と重なった場合には勤務交代を工夫している。また、研修内容を持ち帰り、内容を共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為協議会の研修などには、可能な範囲で参加するようにしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、積極的なコミュニケーションを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設時に、要望を家族へ尋ね、それを介護へと取り入れることで、家族の悩みや不安を解消できるように心掛けている。また、利用者の近況報告を行うことで、情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族との会話から考える最適な支援を見極め、応えることができる様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は対等な立場であり、利用者の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、家族の行事参加は遠慮していただいているが、近況報告を出来る限り行い家族との関係を維持できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や利用者本人から情報を収集し、外出支援等を利用し出来る限りお連れできる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じて、利用者同士の交流を深める機会を提供している。コミュニケーションが苦手な利用者に関しては、個別レクリエーションや職員が間に入って交流を行うなど一人一人に合ったケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で会話に重点を置き介護を行い、要望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に面談を行い、これまでの状況を把握するように努め、記録と口頭による情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を記録に残しカンファレンスの際に、近況報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望と合わせて、担当職員からの近況報告の元ケアプランの実践と見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出支援の際にも、2ユニットの利点を生かし職員配置を工夫し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域の方との交流は行っていないが、外出支援等を工夫して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に関しては、定期的な往診や口腔ケアをお願いしている。他科受診に関しては出来る限り家族での対応をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業者が1回/週健康チェックを行い、職員へのアドバイスを行える体制を確立している。また、特変があった際には協力医への報告を行っている。法人が契約する訪問看護事業者が1回/週健康チェックを行い、職員へのアドバイスを行える体制を確立している。また、特変があった際には協力医への報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会の際に看護師等より情報を収集し、他職員と情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、必要な状態の際には主治医を交えた対談を行い、方針を決めるようにしている。(今年度看取り実績なし)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の為、今年度研修参加は自粛しているが、利用者の急変時に対応出来るよう救命講習を受けた職員が中心となり指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ禍の為、今年度は地域の方の参加はお断りしているが、避難の際の役割分担を明確にし対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉かけや丁寧な対応を職員一同心がけ、日頃のケアやコミュニケーションの際に実践するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望(買い物、外出等)に可能な限り応えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、消灯時間、入浴時間は可能な限り本人の希望に沿うように心がけ、個人の時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目には衣替えを行い、季節感をかんじていただき、希望者には、衣類の購入や近隣の理容室を利用するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を配置することで、手作り料理を毎日提供できている。また、利用者の要望に合った食事を提供するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事(お粥、刻み食など)を工夫し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行っている。協力医療機関に口腔ケアを行ってもらい、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、必要であれば主治医の指示のもと、下剤等を利用し排泄コントロールを行っている。また、水分補給の際に個々の状態に応じた工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態や希望に合わせて、利用者本人と相談しながら、入浴して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方は居室にて休んでいただけるよう、居室の温度管理や寝具の調整など気配りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルのもと、服薬支援を行うとともに、服薬チェック表を活用し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のレクリエーション(塗り絵、将棋、パズルなど)、遊歩道の散歩やドライブを行い、利用者の気分転換が行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者の要望に沿った外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、多少の現金を持っていただき、買い物を楽しんで頂けるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室などのドアに利用者が混乱しないよう目印を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事出来るよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を配置し、心地よい居室となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレなどの場所がわかりやすいよう工夫している。		